

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170400515		
法人名	有限会社 ワオン		
事業所名	グループホーム わおん 1号店		
所在地	羽島市中上町中708番地		
自己評価作成日	平成25年7月12日	評価結果市町村受理日	平成25年10月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosvoCd=2170400515-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会		
所在地	〒503-0864 岐阜県大垣市南類町5丁目22-1 モナーク安井307		
訪問調査日	平成25年8月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かで静かな生活環境で、利用者さんは毎日のように散歩に出かけ季節の移り変わりを楽しんでいる。裏庭には大きな花壇があり季節の花を楽しみ時には木の実をもいで食べるなど、自然と触れ合いながら生活が出来ている。利用者様の希望に沿って、喫茶店や買い物に出かけている。意思表示の出来ない方においては、生まれ故郷へのドライブ、実家に訪れてお仏壇にお参りする等、その方のニーズをセンター方式にて考え、支援に努めている。ご家族の意向も大切にしながら、その方らしい生活が出来るように工夫している。今年開設の施設に馬を飼っており、利用者様はそこを訪れ動物とも触れ合うことが出来刺激ある生活をしている。また開かれた施設をめざし、文化祭などで地域の方をお招きして、施設の中を自由にみていただいたりカフェやバザーを開き地域交流に努めている。地域に何が出来るとかを考え、「介護お悩み相談」を開いたり、地域清掃のお手伝いをさせていただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

花壇と畑を挟んで平屋造り、2ユニットの開設11年目を迎えるホームである。認知症の理解を深めるために「わおん爆笑劇団」の活動を通じて、地域や行政を巻き込んだ取り組みを積極的に行っている。職員は利用者一人ひとりの価値観や生活歴を大切に、個別にかかわりを持ち寄り添った介護に心掛けている。映画の要望があり、その日に向けて意欲的に体調を整え、映画のストーリーに自分の人生を重ねて涙ぐむ等、心身共に予想以上の効果が見られた人もある。代表者はユニット毎のリーダーの若い力を引き伸ばす配慮があり、伸び伸びとして明るく楽しい職場作りを実践している。開設当時から勤務している職員もあり、代表者の熱い思いに共感し、利用者主体のケアを実践しているホームである。羽島市のリーダー的存在として益々期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念と社員行動規範が書かれたクレドを全職員が携帯し、常に読むことによって理念と模範となるべき姿を共有している。	会社理念とは別に地域と密に関係する理念・行動規範を作りあげ、それを明記し常に携帯している。朝礼や申し送り時に項目の中から幾つか読み上げ、一日の行動の基準となるよう心掛け全職員で共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年の夏祭りの参加はもちろん、去年は文化祭を企画開催し、地域の方をお招きしてバザー、カフェなど楽しんでいただいた。地域の方の理解を得られ、大勢の方が参加して下さった。地元の老人会と共に地域の観音様の清掃にも参加している。	子供会と協賛しての「わおんまつり」は地域の協力を得て恒例となり、多くの参加者がある。利用者も浴衣を着て参加し楽しみの一つとなっている。近所からの野菜等の差し入れが多くあり、日常的に行き来している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「わおん爆笑劇団」の活動を通じ地域の方(ふれあいサロン、老人会)に認知症への理解を深めて頂く活動をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回の会議の場を、コミュニティーセンターからグループホームに移し施設の様子を見て頂きながら利用者様も一緒に会議に参加して頂いたり、日頃のレクリエーションや体操など体験して頂く試みを実施している。	会議でホームの日ごろの様子を伝えるだけでなく、職員が研修・実践している。タクティールケアの体験など、多彩な会議内容となっている。地域に受け入れがよく、自治会役員や地域の方々など参加者が広がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの主催する研修への参加や運営推進会議に市役所の高齢福祉課の職員をお招きして意見交流や情報交換をしている。	市担当者だけでなく観光課なども含めて、羽島市一丸となり福祉サロンを開催し、グループホームのリーダー的存在となり連携を取っている。「わおん爆笑劇団」を通じ認知症理解の活動を市と協力しながら行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに努めている。玄関の施錠は夜間のみとし、居室にもカギは取り付けていない。ご家族の同意のもと車いすのベルトを付けさせていただいている方が2名から1名になった。ベッド柵も片側2点柵をさせて頂いていた方が、4名から1名になった。	身体拘束の意義を職員間で話し合い、理解した上で車いすのベルトやベッド柵の使用をしている。家族とも話し合い、期限を決め拘束排除の取り組みを行っているが、書面に残されていない。	利用者の行動を制御する行為については慎重な対応が求められる。職員間でのアセスメントと共に、実施期間・排除に向けての取り組み内容を文書で表し、家族の同意書を含め書面で残されたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ヘルパー会議の場で勉強会として取り上げ、身体だけでなく言葉や態度での虐待もある等虐待に関する知識を深め防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を通して理解できている。 成年後見人制度の対象者は現在見えない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分な説明をさせてもらい、利用者ご家族に理解納得して頂き契約を進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議へのご家族の参加や、来訪された際にご意見やご要望を聞かせて頂くなど、努めているが、外部者に意見を表す機会は残念ながらまだできていないのが現状である。	利用者の意向は日常的な会話の中から把握し、家族の意見は運営推進会議や来訪時に聞き、出された意見はできるだけサービスに繋げる努力をしている。外部評価委員や消防署員からも意見をもらうよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は一斉メールにより、方向性を伝えている。職員からの意見が言いやすい環境を作るため日頃の関係性を深める努力をしている。	職員の意見は会議で出されるだけでなく、リーダーが個別に声かけして要望に対応している。ユニット毎の個性ある取り組みが互いのスキル向上に繋がり、活発な意見が出せる職場となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に管理者やリーダーが意見を言いやすい環境を心掛けており、また管理者やリーダーは職員個々の長所や個性を最大限に生かせる職場環境作りを心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では3か月に一度社内研修を実践している。また法人外の研修の窓口が出来ており、職員は希望する研修に行きやすい環境が出来ている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	複数事業所連携事業を通して他事業所との相互協力の元、講演会、勉強会を企画実行することが出来た。また地域で初めての「感動事例発表会」を開催する事ができた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話を傾聴し、困っている事抱えている不安を感じとり、要望に応えながら徐々に信頼関係を築いて行き安心して暮らしていけるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族は今まで介護を通して困った事や不安を抱え、また施設に預けることにも不安を感じている。安心して任せ荒れるよう、要望などを聞き入れながら、より良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族・施設職員との面談の場を設けサービスに対する要望等を伺い、そこから支援をスタートさせてもらっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人が人生の先輩であり、学ぶことも沢山あることを理解しており、尊敬の念を持って接している。本人も職員と共に日常生活を送ることでやりがいや、意義を感じている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は本人が家族にとってかけがえのない存在であり、家族にしかできないことがあることを理解している。家族の協力を得ながら共に本人を支える関係が出来ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの店での買い物や、以前よく行っていた喫茶店などに行ったり、昔よく食べたパン屋へ、ドライブがてら行ったりしている。	家族と共に利用者のこれまでの生活背景を共有し、馴染みの人や場所との関係が続くように支援している。昔住んでいた地域のお祭りや行事など、遠くても個別に対応し出かけることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者同士の人間関係を把握しており、一人一人が孤立しないように支援している。集団でのレクリエーション・外出を通して利用者同士が関わりあえるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人の他界後も家族が来訪されたり、ボランティア活動での協力を申し出て頂けるなど、これまでの関係を維持している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご主人のお仏壇にお参りがしたいとの要望を受け。行きたいときにご自宅にお連れしてお経を読んでいただくなど、本人の意思を大切に今までと同じような暮らしが出来るように支援している。	継続性を保つ為にこれまでの生活歴を深く理解し、その上で一人ひとりの価値観や大切にしている事などを話し合っている。亡くなったご主人の戦争体験から興味ある映画に行きたい思いを叶え、個別に出かけたこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報やアセスメントから、生活歴、なじみの暮らし方など把握している。サービス計画書を元に家族・職員と情報の共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や医療関係者からの報告で職員は一人一人の心身状態の把握に努めている。変化のある場合には特記事項に記入し情報を共有している。家族にも報告している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に一度のモニタリングを元に介護計画を作成、目標を立て、サービス計画に基づいた支援をしている。偏らないように介護支援経過を毎日つけている。	毎月のヘルパー会議を基に医師や家族の意見も含め、3ヶ月毎のケア会議で、課題の共有を図っている。担当の職員がモニタリングし、ケアマネジャーが次の介護計画へと繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月に一度のヘルパー会議で、個々の記録に基づいた話し合いをしている。新たな取り組みや、議題をあげ、会議録に残し全員共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員は本人の為に何が出来るかを考え、全員で協力して取り組んでいる。ターミナルになった方に今何が出来るか話し合い、会話の中によく出てくる本人のご実家のある街にお連れした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	足マッサージや体操など地域の方の協力を得て行っている。その他落語や歌のボランティアなど利用者さんの暮らしが豊かになるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は利用者家族の意向に沿わせて頂いている。入所前にかかっていた主治医との関係を大切に、施設に入ってから安心して暮らせるように支援している。	受診前後の状況を医療関係記録用紙に記入し、医師・家族・事業所との情報の共有に役立てている。通院の不安な入居者には、馴染みの歯医者等に往診を頼み適切な治療が行える支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と看護師との関係は出来ており、日々の気づきや変化を報告、相談し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は本人のアセスメントや心身状況を報告し、病院関係者との情報交換に努めている。常に連絡を取り、病室に度々訪れ顔なじみになるなどして関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期については主治医との話し合いのもと、早い段階でご家族に報告し、意向をうかがっている。事業所で出来る事、出来ない事を理解して頂けるように十分説明させて頂いている。	医師や看護師との連携を密にし、段階に応じて家族の意向を確認しながら、できる範囲の看取りを行っている。終末期に向けて家族から宿泊の要望があれば、対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを作成しいつでも対応できるようにしているが、初期対応や応急手当がすぐ出来るような実践的な訓練の必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施している。訓練結果を記録に残し、訓練を体験した職員の感想や反省点、消防からのアドバイスが次の訓練に活かされるよう、職員全員で共有している。	運営推進会議の中で災害対策をテーマとして取り上げ、地域の協力を得て積極的に取り組んでいる。地震・豪雨も含めて何時・何処で・どの様にして、利用者の安全を図るのか検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使い・声掛けは常に気を付け、一人一人の人格を尊重して対応するように心掛けている。本人のプライバシーが損なわれないように配慮し、皆の前で排泄の話などは避けるように職員が意識して対応している。	一人ひとりの笑顔を大切にという職員共通の願いが、目上の人に対する接し方の規範になっている。屈託のない入居者の伸びやかな表情に、日頃の様子がうかがわれる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は日常の生活や会話で本人との信頼関係を築き、希望を言いやすい環境作りに努めている。常に選択肢を設け、本人に尋ね自己決定をする機会を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者さん一人一人の生活のペースを理解しており、その方にあった対応をしている。また朝礼の場などで今日は何をしたいか聞き希望があればそれに沿った支援が出来るようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	紙のカットや毛染めなども施設で行っており、そのような時には「素敵ですね、若返りましたね」など声をかけたり、服装なども「よくお似合いですよ」と声をかけることで身だしなみを整えたりおしゃれをすることが楽しくなるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	故郷の懐かしい味などを聞きその方と一緒に作って食べるなどしている。大分出身の方に「団子汁」を教えて頂き何度か作り楽しんでいる。梅干しつくりも材料購入から一緒に行い、付け込み、土用干しなどその工程を楽しんでいる。	頂き物や自家製の野菜を基に献立を決め、手作りの食事を職員も一緒に囲んでいる。お茶の用意や食べた後の食器を下げる様子は生活そのものであり、見守られつつ共に暮らす支援が、食を通して行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日記録し、水分・食事の量には常に気を配っている。少ないときにはその方の好みに応じた食事を作るなどして工夫している。ターミナルの方にはその方個別の健康管理票を作り記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアが出来ており、自分で歯磨きが出来る方には声掛けをして対応している。食事をされない胃瘻の方の口腔ケアもしている。歯科医との連携も取れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を決めてトイレの声掛けをしている、車いすの方もトイレで排泄が出来るように支援している。	排泄の不安定な人に食事の検討から取り組み、リズムを安定させる事が出来た。車椅子から便座への移乗方法や、体の傾きに配慮して足を置く補助台を工夫する等細やかな配慮がされ、トイレで排泄できる工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の際にはヨーグルトや食物繊維の多い食材を取り入れた食事、水分をしっかり摂るなど食事の工夫をしたり、散歩やマッサージなど体を動かすことで排便を促すようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、入るタイミングは利用者さんのその日の状態に合わせている。入浴中に歌を歌ったり、話を聞いたり入浴が利用者さんにとって楽しいものであるように支援している。	肌と肌の触れ合いを通して感ずることを大切にしたいという思いから、機械浴はしていない。体調や脱衣の不安に配慮しつつ、心地良い解放感や浴後の爽やかさを味わえるよう心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節の変わり目や、厳しい気温変化に対応できず、体温調節が出来ない方が多く、職員は常に気を配り、その都度クーリングをしたり、休んでいただいたりしている。室温気温にも気を配り快適に過ごせるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬事情報が添付されており、それを見ることで目的、副作用などを知ることが出来る。服薬管理は職員がしており食後きちんと服用できるように手渡し、確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎朝の朝礼の掛け声、食事の準備や片付け、洗濯など、手伝いをして頂いた時に感謝の気持ちを表すことで張り合いを感じて頂いている。利用者さんの指導の下食事作りをするなどして、人に教える喜びを感じて頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの花見やドライブはもちろん、「今日は家に帰ろうと思うけど」などの希望に応え、ご家族の了解を得てご自宅にお連れしたり、喫茶店や、お菓子屋など、本人の希望に沿うように努めている。	毎日の散歩以外にも喫茶店やショッピング、地域のお祭り、花見や郊外へのドライブなど出かけ、気分転換を図っている。外出は日常生活の大切な一環と位置づけ、日々の支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を身近に持っていたいとの希望があるが、置き場所を忘れていたりすることがあり、管理は職員がしている。買い物に行った際にはお財布をお渡しして、ご自分で支払いが出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、職員が電話をかけ、電話をした理由を説明した後、取り次いで話して頂くようにしている。手紙や、暑中見舞い、年賀状の声掛けをして、書いて頂けるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は清潔感のあるように心掛けており玄関なども靴が散乱しないように、きちんと片づけてある。壁には季節感のある壁飾りなどをかざり、歌の歌詞や、良い言葉などを常に目に着くところに掲示してある。テーブルクロスも淡いグリーンにしてあり落ち着く雰囲気作りをしている。	中央にテレビやソファが配置され、居心地の良い寛ぎの場となっている。玄関から居間、ホールを取り囲むように個室、洗面所やトイレへの移動などがし易い配置となっている。壁には温かみのある絵や文字が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはテレビの空間にソファがあり好きな所に座って、テレビを観たり、利用者さん同士が仲良く話ができる空間が出来ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人が使っていたタンスや、衣装ケースなどなじみの物を置き、写真や絵を飾るなど、居心地良く暮らせるように工夫している。	使い慣れた寝具や家具で整えられた部屋は、思い思いの雰囲気に設えられ個性的である。大きめの窓は採光も十分で明るく、清潔感があり居心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員は日頃から利用者さんとしっかり関わることで、何が出来て何が出来ないかを知っており、また出来ない事を出来るようにする取り組みも行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170400515		
法人名	有限会社 ワオン		
事業所名	グループホーム わおん 2号店		
所在地	岐阜県 羽島市 上中町708番地		
自己評価作成日	平成25年7月12日	評価結果市町村受理日	平成25年10月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JiyosyoCd=2170400515-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 んふ住民福祉研究会		
所在地	〒503-0864 岐阜県大垣市南類町5丁目22-1 モナーク安井307		
訪問調査日	平成25年8月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームわおん2号店では、利用者様が楽しい毎日をご過ごす環境を目指し、四季折々季節感を味わって頂くために、ドライブに出かけたり、七夕・運動会・花見の会などの行事を行ない楽しく季節感を味わっていただいています。また、外出で買い物に行かれると利用者様に食材を選んでいただき、食事の献立を聞いてみたりと利用者様と職員が一緒になって献立を決めています。地域活動では、近くの中学校の学生さんが職場見学に来られたり、毎年開催されている円空祭りに参加させていただいたりと地域の方との触れ合いを大切にしています。これからも一人の人生に寄り添い、学び、感謝できるこのサービスを大切に、ご利用者様と共に成長できる事業所を目指し頑張ります。皆様のご声援よろしくお願い申し上げます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念と社員、スタッフの行動規範が書かれたクレドを全職員が携帯し、職場で読むことによって理念と規範となるべき姿を共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭りへの参加や避難訓練の際の近所の方の協力、中学校の学生さんの見学などの地域との関係を深いものにしていく。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「感動事例発表会」時に、「悪徳商法、爆笑寸劇」を通して認知症への理解を地域の方にわかって頂くためにみのぎくホールにて実践した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回会議の場を設け市議会議員、民生委員、地域の老人会会長の参加の意見や助言を頂き、サービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの主催する会議への出席や運営推進会議への参加で、意見交換・情報交換をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを心がけている。ヘルパー会議の場で勉強会を行い、職員の意識向上に努めている。玄関の施錠は、夜間、スタッフが少ない時間のみとし、居室には鍵は設置していない。車椅子での安全ベルトを使用しているがご家族様と協議のもとでつけさせていただいている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様にヘルパー会議の場で取り上げ勉強し、スタッフ一人一人が意識している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を通して理解し、生年後見制度の対象者は、現在見えない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分な説明をさせてもらい、利用者様・ご家族様にご理解・納得して頂き契約を進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営会議への参加により意見を聞く機会を設けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は、メールを通して全職員に想いや、方向性を伝えている。また、職員からの意見が伝わりやすい環境を作るため各リーダーや管理者は日頃から関係作りに勤めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、常に管理者やリーダーが意見を言いやすい環境を心掛けており、また管理者やリーダーは、職員、スタッフの個々の長所や個性を最大限に生かせる職場環境作りを心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では、三カ月に一度社内研修(文化センターなどで)を実施している。また、法人外の研修の窓口があり職員は希望する研修に行きやすい環境ができています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「複数事業所連携事業」があり、他の事業所との感動ムービー作成発表会をおこない、お互いに質の向上ができた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人のお話を傾聴し、困っている事、抱えている不安を感じとり、要望に応えながら徐々に信頼関係を築いていき、安心して楽しい毎日を過ごせるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、家族様、今まで介護を通して困っている事や不安を抱え、また施設に預ける事にも不安を感じている。安心して任せられるよう、要望等を聞き入れながら、良い関係づくりにつとめている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族・施設職員との面談の場を設け、サービスに対する要望等を伺い、そこから支援スタートさせてもらっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人が人生の先輩であり、学ぶことも多くある事を理解しており、尊敬の念を持って接している。本人も職員と共に日常生活を送ることでやりがいや、意義を感じて過ごしやすい空間をつくっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族が本人にとって大切な存在であり、家族にしか解決できないことがあることを理解し、家族の協力を得ながら共に支えていく関係ができています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ケアプランや本人様の要望を参考に支援に努めています。自宅や馴染みの店、昔の教え子さん、近所の友人様など様々な角度から支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員、利用者同士、全員でレクリエーションをしたり、一人一人孤立しない様に職員は利用者同士の人間関係を把握している。また、集団で、外出し、利用者同士が関わりあえる場所を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人が、他界されてもボランティア活動などでの協力を申し出て頂けるなど、これまでの関係を維持し、いつでも相談できる関係である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思に応じた暮らしができるように支援している。困難な場合は家族の希望や意見を交えながら、本人本位で、支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報や、アセスメントから生活歴、なじみの暮らし方などを把握している。ケアプランをもとに、家族・職員と情報の共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や、業務申し送り用紙、申し送りノートを活用しスタッフが、共有できるようにしています。また、ご家族様にも、報告しております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは担当スタッフに記入して頂き、日常でのスタッフのきずきや、問題点を、申し送り時に、話し合ったり、医療関係者の方やご家族様に意見を聞きケアプランに反映しております。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日3回の申し送りと、ケアの実践を、個別に介護支援経過に記入し、プランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員が利用者さんにしてあげたい夢を色紙に書き玄関入り口に貼り皆でそれに向かって協力しながら実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	足マッサージや、落語研究会、円空さんの朝市、にも顔をだし、また、友人の息子さんとのお話で、昔を思い出されたりして、利用者さんの暮らしが楽しくなるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に、スタッフが同行したり、またご家族様より報告の元、医師、ご家族、事業所との連携を図っております。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日々の生活に異変があったときは、看護師や主治医に相談し、適切な対応に努めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、本人のアセスメント、状況方向をし、病院関係者との状況交換をしております。病院には、たびたび顔をだし、医療関係者とのなじみづくりを、しております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早期の段階から、家族様と話し合いをしている。事業所で出来る事、出来ない事を理解して頂けるように十分説明させて頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルはありますが、いざその場で応急手当、初期対応は、行っていないので、取り組んでいく必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間時想定で、年に2回消防訓練を、行っている。スタッフが、夜間は、一人なので、毎回一人ずつ訓練をすることで、行動を身につける実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使い・声掛けには常に気をつけており、スタッフ一人ひとりが、注意している。本人の人格を尊重して対応するように心がけている。会議に言葉使いを取り上げて忘れない様に、している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	朝礼の場、レクリエーションの場や日常会話から、希望を言いやすい環境にしている。また希望を言えない方は、こちらから提案し選んでいただけるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人さん一人ひとりのペースを大切に朝礼の時に本人さんからお話を聞いたり、職員とコミュニケーションの中で、したいことを聞き、希望があればそれに沿った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	施設では、スタッフが髪の毛をカットしたり、本人の要望を聞きながら服を選ばせて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りでは、スタッフが声掛けをし野菜を切ったり、片づけも一緒に食器拭きなど、お手伝いして頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日介護記録に記入し、水分・食事の摂取量は常に気を配っている。食べる量が少ない時や水分が少ない時は、本人の好きな物を摂取している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には、口腔ケアをおこない、出来る方は声掛けをし対応している。胃瘻の方も口腔ケアをおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の時間を決め声掛けをおこなっている。車椅子の方も、トイレ誘導を行い少しでも排泄を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝朝食時に、乳製品を摂っていただいたり、食物繊維の多い食材を使ったりして摂っている。排泄時には、腹部のマッサージなどもおこなっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は、決まっているが本人が入りたいときにも入れるようにその日の状況に合わせている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気温変化に対応できず、体温調節が難しい方が見えますが、本人にお聞きしたり体温測定や気温・湿度計を設置してあるので職員が確認している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人情報ファイルに、薬情報がはさんであり職員は、毎月薬が届くと目的・副作用などを見るようにしている。服薬の管理は、スタッフが管理しており、手渡し服薬確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎朝の朝礼、食事の配膳・お手伝い、洗濯物のお手伝いなどをして頂いた時に感謝の気持ちを伝えることで役割を感じてもらっている。行事などでも、本人の役割を作り職員との達成感を味わっていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「お菓子を買に行きたい」「家行きたいんやけど」との希望があると、職員と一緒に出かけしている。地域のお祭りや桜の花見、紫陽花の花などの季節の花をみたりと、お出かけをしている。あと、家族にも一緒に参加して頂けないかお尋ねしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お財布は、職員が管理している。本人が、欲しいものを買いたい時に、一緒にレジに並び料金を確認しお金を支払っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来る方は、スタッフが電話をかけ、家族さんが出られたら電話を代わりお話をしたりしている。手紙が届いた時は、職員と一緒に寄り添い読んでいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアは、毎日掃除し清潔感のある空間にしている。空いてる壁には写真、飾りなどレクリエーションで作ったものを飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファーが二つ向き合っていて、TVをご覧になられている時には、利用者様同士楽しくお話している。また、ベランダで日向ぼっこをされていると、犬もいて楽しく過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人なじみの物や写真、塗り絵作品、誕生日プレゼントを飾ったり本人の居心地の良いように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員は、利用者様としっかりと関わることで、出来る事と出来ないことを職員同士情報交換し、よりよいケアに努めている。		